



トンプソン・リバーズ大学 (TRU)

Thompson Rivers University

カナダ

トンプソン・リバーズ大学ホームページ <https://www.tru.ca/>
インターナショナルトレーニングセンターのホームページ <https://www.tru.ca/truworld/short-term.html>

期間	夏季プログラム：3週間（8月上旬～8月下旬） 春季プログラム：3週間（2月中旬～3月上旬） NEW!
滞在形態	ホームステイ
単位認定	あり（一定期間内に申請が必要。現地での成績評価による）
留学費用	総額（2019年度参考） 夏：約48万円 ※実際の費用は、参加人数・航空費・為替レートなどにより異なります。
助成金・補助金	大学からの助成金 17万円（語学成績優秀者*は25万円） 後援会助成金・同窓会補助金 3万円（語学成績優秀者*は4.5万円） *出発前に定められた語学成績優秀者区分で助成金の支給決定を受けたもの
説明会時期	夏季プログラム 4月上旬（申請時期 4月下旬） 春季プログラム 10月上旬（申請時期 10月下旬） 【参加必須】

★受入機関・都市の概要
TRUは、バンクーバーから飛行機で40分ほどのカムループスという小さな町にあります。山に囲まれた自然豊かな環境で、広大なキャンパスにはスポーツ施設なども充実しています。放課後は、街の中心までバスで気軽に行くこともできます。

★留学概要について
TRUの付属語学学校（インターナショナルトレーニングセンター）で3週間学びます。語学の授業の他、選択科目を取ることができます。アウトドアアクティビティが充実しており、体を動かすことが好きな学生におすすめです。2021年度は夏季プログラムに加えて、春季プログラムも新たに実施予定です。



ラ・トロブ大学 (LTU)

La Trobe University

オーストラリア

ラ・トロブ大学ホームページ <https://www.latrobe.edu.au/>
ランゲージセンターのホームページ <https://www.latrobecollegeaustralia.edu.au/>

期間	春休み期間中の約5週間（2月上旬～3月中旬）
滞在形態	ホームステイ
単位認定	あり（一定期間内に申請が必要。現地での成績評価による）
留学費用	総額（2019年度参考） 約48万円 ※実際の費用は、参加人数・航空費・為替レートなどにより異なります。
助成金・補助金	大学からの助成金 17万円（語学成績優秀者*は25万円） 後援会助成金・同窓会補助金 3万円（語学成績優秀者*は4.5万円） *出発前に定められた語学成績優秀者区分で助成金の支給決定を受けたもの
説明会時期	10月上旬（申請時期 10月下旬） 【参加必須】

★受入機関・都市の概要
ビクトリア州メルボルンはオーストラリアで2番目に大きな都市で、世界各国からの移民など様々な人種が住んでいます。大学や教育機関が多い街としても知られています。キャンパスのあるバンドゥーラは、メルボルンの中心地から20kmほどの場所に位置する緑豊かな街です。キャンパス内には銀行や郵便局もあり、世界各国からの留学生が学んでいます。

★留学概要について
メインキャンパスである、バンドゥーラにあるラ・トロブ大学ランゲージセンターでの5週間の英語プログラムが中心となります。最初にプレイズメント（クラス分け）テストを受けて、各人の英語レベルに応じたクラスに入り、そこで様々な国からの留学生と共に英語を学びます。土日・日曜日には基本的に授業はなく、他の予定がないときや、放課後などは自由行動ができます。

わたしの留学体験記

2019年度 夏季 留学時 2年生

留学先 カナダ トンプソン・リバーズ大学 (TRU)

地域政策学部 草間 颯一郎



カナダ、カムループスで過ごした3週間は、今までの人生で最も刺激的で充実し、楽しく、考え抜いた時間でした。私がこのカナダの語学研修を選んだ理由としては、カナダの文化、自然が好きであったこと、プログラムの内容にアクティビティが多いという2つの理由がありました。実際にカナダに到着すると、空港から見える壮大な自然、美しい街並みに圧倒されました。自分が想像していたカナダより数倍美しく、これからの3週間に期待を膨らませました。しかし、最初の1週間はホームステイ先の家族が話している英語をうまく聞き取ることができませんでした。学校には、日本以外にもメキシコ、台湾、インドネシア、中国など、数多くの国々から留学生が訪れており、その状況下で私は上手くコミュニケーションを取ることができず、悔しい思いをする日々が続いていました。自分は何のために留学をしているのか、カナダへ来たのかをもう一度考え直しました。そして迎えた2週目。英語にも少しずつ慣れ始め、授業中でも自分が伝えたいことをうまく伝えることができなくなることや、意識して積極的にコミュニケーションをとることができるようになりました。特に、私は選択科目でGlobal Citizenshipを選択しましたが、それは日本人3人に対してインドネシア人約20人という非常に人数の比率が偏ったクラスでした。一番最初の授業ではインドネシア人に圧倒され、何もすることができませんでした。しかし、積極的にコミュニケーションをとる意識を忘れずにいると、インドネシア人の優しさや素晴らしさを肌で感じることができ、仲良くなることができました。

3週目には、学校から帰った後、ホストファミリーとその日あった出来事話したり、日本のことを話したりすることが、日々の楽しみとなりました。また、今回の語学研修の特徴としてはアクティビティが多く、実際に自分の肌でカナダの自然、文化を体験することができました。特に、美しい湖でのカヤックや山々に囲まれながらのHorse Back Riding（乗馬体験）は現地でも経験することが出来ないものでした。映像からしか見たことがなかった、息をのむほどの美しい風景が日常風景として当たり前のように存在するカナダ、カムループスは、やはり3週間過ごしても慣れることはありませんでした。この3週間、語学力はもちろんですが、それ以外にも様々な国の文化に対する考え方や人と積極的にコミュニケーションを取り、能動的にアクションを起こすことの重要性を学ぶことが出来ました。この貴重な経験を無駄にすることなく、これからの自分自身の語学力向上や将来に活かしていきたいと思えます。



とある一日のスケジュール

- 7:30 起床・朝食
- 8:30 バスで通学
- 9:00～12:00 授業
- 12:00～13:00 昼食
- 13:00～15:00 アクティビティ（乗馬体験）
- 15:00～18:00 自由時間
- 18:00～19:00 ホストファミリーと夕食
- 19:00～21:00 ホストファミリーとゲーム、談話
- 21:00～22:00 宿題
- 22:00～23:00 シャワー・明日の準備



わたしの留学体験記

2019年度 春季 留学時 2年生

留学先 オーストラリア ラ・トロブ大学 (LTU)

地域政策学部 茂木 成美



私は、オーストラリアのラ・トロブ大学に5週間、留学しました。ラ・トロブ大学を選んだ理由は、短期語学研修の中で期間が最長であること、オープンクラスであること、ホームステイができることの3つです。この留学では、英語力の向上はもちろんですが、それ以上に、多国籍・異文化の中で生活することを通して、物事に対する捉え方、考え方の変化を感じることができ、新たな学びとともに自分自身を振り返るきっかけとなりました。大学は非常に大きく、自然豊かな広い場所に位置しており、ゆったりとリラックスして過ごせる環境でした。涼しい日や、夜遅い時間には野生のカンガルーを見ることができ、オーストラリアならではの体験ができました。最初に行われるテスト結果でクラス分けがされるので、自分に合ったレベルの学習をすることができました。私のクラスでは、グループディスカッションが主だったので、英語を話す機会が多くありました。他国の留学生はスピーキングを得意としているので、私以外のメンバーでどんどん話が進み、最初は全くついていけませんでした。「私は何をしたらたんだらう」と悔しさと情けなさを感じましたが、分からないことはどんなことでも何度でも質問し、クラスメイトや先生のおかげで難しいこともだんだん楽しくなりました。積極的にコミュニケーションをとることや、自ら行動を起こすことの大切さを学びました。またディスカッションを通して、母国での教育や文化の違いによって幅広い考え方や価値観が生まれるということが分かり、他国の留学生と話し合うことの面白さを感じました。授業が終わると、友達とショッピングに出かけたり、大学内のカフェやジムに行ったり、イベントに

参加したり、誕生日パーティーをしたりしました。休日にはメルボルンの中心に行き、有名な観光名所を巡ったり、フィリップ島などの少し遠い場所のツアーに参加したり、ビーチでのフェスティバルに行ったりと、日本では味わえない充実した時間を過ごせました。ホームステイは初めてだったので不安が大きかったですが、ホストマザーはどんな小さなことも気にかけてくれ、外国の食べ物など新しいことに挑戦する機会をたくさん与えてくれました。また人生経験や昔のオーストラリアの様子を話ってくれたり、私の将来について一緒に考えてくれたりと、母と娘のような関係を築くことができたと感じ、本当に素敵な時間を過ごせました。最後に、この留学を終えて、新しい環境に足を踏み入れることの面白さ、そこでの人との出会いや経験できることの素晴らしさを感じました。今後はより深い学びや、英語での会話を上達させたいという意欲を忘れず、英語学習や将来に向けての学びに力を入れていきたいと思えます。

とある一日のスケジュール

- 6:15 起床 準備 朝食
- 7:30 トラムで学校へ
- 8:30 大学到着 友達と会話
- 9:00～11:00 午前の授業
- 11:00～13:00 昼休み・特別講義or 交流会イベント
- 13:00～15:00 午後の授業
- 16:00 シティに遊びに行く
- 20:00 夕食・ホストマザーとおしゃべり
- 22:00 シャワー
- 22:30 課題
- 24:00 就寝

